

裸足感覚で走るということ

ニュートンランニング

もはやブームを通り越し、文
化として定着したともいえる。走
ること「ランニング」。ランナー
たちの思いは走ることで自他から
何を履いて走るか、ということこ
ろへ進化してきている。そんな
中、熱狂的な支持を受けている
のが、ニュートンランニングの
シューズだ。

スタイルバイクの則武史さん
にお話を伺った。

『BORN TO RUN 走る
ために生まれた』ワルトラン
ナーVS 人類最強の『走る民
族』という本がアメリカでベスト
セラーになりました。この本のお
かげで、ベア・フット・ランニ



ニュートンランニング MV² (エムブイツー)
価格 ¥15,750 (税込)

問い合わせ：ニュートンランニング <http://www.newtonrunning.jp/>

ング「裸足で走る、ということが
昨今の健康志向のブームと相まっ
て注目されるようになり、ニュー
トンランニングにも視線が注がれ
るようになったんです」

「BORN TO RUN」はク
リストファー・マクドゥーガル
が書いたベストセラーで、ニュー
ヨークタイムズで32週ランクイ
ン、20万部を売り上げた。走る
ことのルーツを追った著者はメ
キシコのタラウマラ族という部
族に行き着く。彼らは、素足で
峡谷を走るベア・フット「裸足
のランナー」だった。

「裸足で走るということが流行
しましたが、実際に都市などでは
難しい。そこで、裸足感覚で走る
ことができるニュートンランニン
グのシューズが注目されるようにな
りました。一般的なシューズは
かかとで着地して、つま先で蹴り
出すように作られています。しか
し、裸足で走る場合、かかとから
着地するということはありません。
ミッドフット/フォアフット
ト(足底前部/中部)が先に着き
ます。この考えに沿って作られて
いるのがニュートンランニングの
シューズです」

そのしくみを解説してみよう。
ミッドフット/フォアフットで

着地すると、底にある4つの赤い
突起部がミッドソールの空洞部に
押し込まれる。テコの動きのよう
にシューズを持ち上げると、吸収
したエネルギーを放出し、前進動
作に還元する。その力が膝を引き
上げ、次の一步の踏み出しにつな
がっていく。

「この特長が、特許を取得した
作用反作用テクノロジーです。社
名のニュートンは、この技術に由
来しています。ランニングシュー
ズの多くは足への衝撃を吸収し、
路面からの反発力を得るため、エ
アー、ゲル、フォーム、プラス
チックのいずれかを使っているは
ずです。しかし、それらの素材そ
のものに、ニュートンのテクノロ
ジーのように、エネルギーを吸収
し、還元する能力はありません」

補足すると、「あらゆる作用に
対して、必ずそれと同じ大きさで
方向が反対の反作用が存在する」
というのが、アイザック・ニュ
ートンによる運動の第3法則だ。こ
れを基にした画期的な設計を行っ
たのが、ニュートンのシューズと
いうことになる。近年、売り上げ
も急上昇しているという。

「ありがたいことです。ランニ
ング、マラソンはもちろんです
が、最近、トライアスロンをさ

れる方が増えていて、トライア
スロン競技者の中でニュートン
を使われている率はかなり高く
なってきました」

ニュートンランニングのホー
ムページに行けば、クレイグ・ア
レクサンダーはじめ歴代のアイア
ンマン・ワールドチャンピオンの
多くがこのシューズの愛好者であ
ることがよくわかる。

「他のシューズにない色使いと
いうことも意識していますね。や
はり日本人の方は個性を重視され
る。機能もそうですが、色やデザ
インも他の人と一緒じゃ嫌、とい
う感覚があるのでしょうか。それ
でニュートンを選ばれる方も増えて
いるようですね」

ランナーやトライアスリート
から愛されていた「DISTA
NCE」、「GRAVITAS」に
続いて、今秋、「MV2」を発売
見た目の美しさ(写真)が目を引
くが、これまでにない最軽量モデ
ルとなっている。

BORN TO RUN。走るこ
との最初に立ち返ることができる
シューズ。そんなルーツに想いを
馳せ、その感覚に立ち戻り、一歩
を踏み出す。それは、これまでに
ない贅沢なランニング体験を生み
出すことだろう。